看護局スキルアップ委員会ニュース

『プリセプティ研修（ステップⅢ）』
研修会実施報告

日時　　：令和３年３月５日（金）13:00～17:15
対象者　：卒後１年
参加者数：12 名
目的　　：自己の看護を振り返り、２年目の目標が明確になり成長に繋げる
1. 組織やチーム内での役割を再認識する
2. 責任ある看護実践について
3. クリニカルラダーⅠ達成に向けて

＜講師の紹介＞

新人教育委員会
2B 病棟　Ⅰ係長
3A 病棟　N 主査
キャリア開発システム委員会
外来診療科　T 師長

＜内容＞

まずはじめに入職して１年が経ち、この１年で嬉しかったこと、辛かった経験について振り返りました。それぞれの部署で自己でできる看護ケアが増え自信につながった、プライマリーとして担当した患者からの声が励みになり嬉しかったこと等を共有しました。辛かった経験を同期で共有し、またストレスの対処方法についても学びました。次に「組織とは」「プライマリーナーシング」の講義があり、自己を振り返りました。グループワークでは「クリニカルラダーⅠ達成に向けて必要なこと」について活発に意見交換を行い、それぞれの課題が明確になりました。研修のおわりには「１年後に私はこうなっています」の発表を行い、期待や不安もあるが組織、チーム内の信頼される一員として働いている姿を想像しました。今回の研修で１年間の学びや経験したことを振り返ったことで２年目に向けての目標が明確となり、成長に繋げていけることを期待しています。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『伝達講習』
研修会実施報告

日時　　：令和 3 年 2 月 25 日（木）17：00 ～ 17：40
対象者　：全体研修
参加者数：27 名
目的　　：看護学会・研修での学びを伝達し共有することができる

＜発表：学会・研修参加者＞

1	日本褥瘡学会学術集会	2B病棟
2	糖尿病医学の進歩	3A病棟
3	日本看護学会　ヘルスケアプロモーション	4A病棟
4	日本看護学会　　看護管理	4B病棟
5	日本看護学会　　看護教育	4B病棟
6	奈良県看護学会	3A病棟
7	日本医療マネジメント学会	2A病棟
8	日本透析医学会学術集会	透析センター
9	奈良県看護職認知症対応能力向上研修	4A病棟
10	実習指導者講習会	外来

＜内容＞

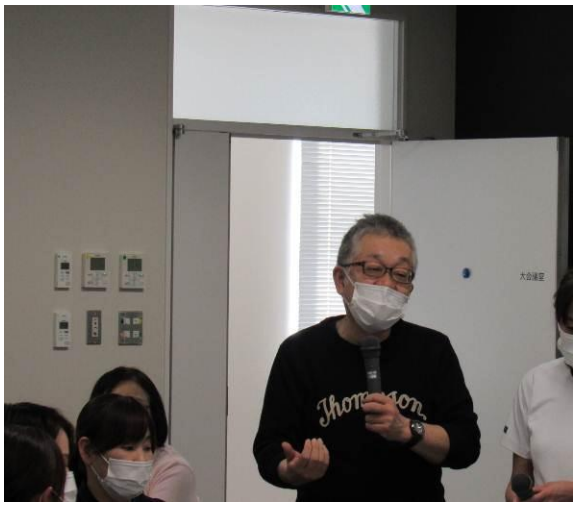
2020 年度に学会、研修会に参加された中から 10 名の方に発表して頂きました。コロナ禍で、現地開催が中止となり Web 開催に変更となった研修や学会が多くありました。今回、それぞれに学んだことや新しい情報、感銘を受けたことなどを 4 枚のスライドにまとめ、簡潔に要点を伝えて頂きました。習得した新しい知識を他の職員に伝達してもらうことが、時代の変化に対応した看護の提供にも繋がります。今回の学びを現場で活かしていきましょう。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『意思決定支援』
研修会実施報告

日時　　：令和３年２月 13 日（土）　９：00～16：00
対象者　：ラダーⅡ～Ⅲを目指す者
参加者数：36 名
目的　　：意思決定場面における看護師の役割と ACP が理解でき、実践につなげることができる

＜講師の紹介＞



AM
緩和ケア認定医師
奈良県立医科大学付属病院　緩和ケアセンター
センター長　　四宮　敏章先生
PM
緩和ケア認定看護師
H 係長

＜内容＞

今回の研修は意思決定支援をテーマに行われました。午前は四宮先生からがんと診断された患者・家族に生じる心理的な問題も踏まえた上でアドバンス・ケア・プランニング(ACP)をどう進めていくか、メリット・デメリットなど講義をしていただきました。再発に対し不安を抱えているがんサバイバーが多いにもかかわらずそれに気づいている医療者は少ないのが現状で、グループワークではケアが必要なサバイバーの見つけ方や声掛けの方法など患者役、看護師役に分かれロールプレイも行いました。午後からは H 係長より意思決定支援における看護師としての役割について講義をしていただきました。その中でコミュニケーションスキルを高めると患者への質の高いケアへの提供につながるとありました。看護はどの場面でもコミュニケーションスキルが求められますが、そのスキルの一つとして今回は「NURSE」について学びました。Naming(命名)、Understanding(理解)、Respecting(承認)、Supporting(支持)、 Exploring(探索)の意味で、会話の中に取り入れることで感情表出を促すことができるスキルです。グループワークではこのスキルを実際にどのように用いるか話し合いました。今後このコミュニケーションスキルを活用し看護実践に繋げられることを期待します。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『災害看護研修』
研修会実施報告

日時　　：令和３年２月２日（火）13：00～15：50
対象者　：全体研修
参加者数：21 名
目的　　：災害時の初期対応能力の向上が図れる

＜講師の紹介＞

災害看護委員会
　　F 師長
　　M 師長

＜内容＞

災害看護についての講義では災害サイクルの内容の説明がありました。静穏期・準備期では災害が発生するまでに行う教育や訓練、超急性期は発災から 72 時間で「まず命を救う」こと、急性期は災害から１週間で被災者や派遣ナースへの心の配慮、亜急性期では避難所生活や被災者の健康状態の評価、心のケア、復旧・復興期では他職種との連携など災害の時期に合わせた看護が必要である事を学びました。

そして減災カレンダーという訓練ツールを用いて「災害」の種類や備えの必要性、災害時に必要な情報や情報収集手段などについてグループワークを行いました。また部署での減災活動のための課題というテーマでは 5S が重要である事を再認識することができました。
整理・整頓・清掃・清潔・躾をきちんと守り療養環境の整備を行うことで大地震が発生した際の被害も低減すると思います。まず出来ることから取り組み減災活動に取り組んでいきたいと思います。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『令和２年度看護研究発表』
研修会実施報告

日時　　：令和３年１月 30 日（土）　８：30～12：30
対象者　：卒後４年スタッフ 13 名　アドバイザー3 名　部署研究グループ２名
　　一般参加者 31 名
参加者数：49 名
目的　　：看護研究の取り組み方法と実際を知り、看護の創造性を養う事ができる

＜講師の紹介＞

山陽学園大学　中木里実先生
順天堂大学　平岡玲子先生
畿央大学　福森貢先生

今回もコロナウイルス感染拡大の影響を受け中木先生はオンライン形式での参加となりました。

＜内容＞

今年度は、部署研究２題と卒後研究４題の発表を行いました。各グループが１年間の研究成果を論文作成し発表されました。発表後は質疑応答で意見交換もあり、先生方からは労いの言葉とともに実践的な研究内容であり日々の看護業務に活かせると励みになるお言葉をいただきました。1 年間の成果を発表し、学びの多い研修になったと思います。先生方からいただいたアドバイスを元に、外部発表に向けてより良いプレゼンテーションができるよう頑張ってください。そして、この研究の成果が今後の看護に活かせることを期待しています。看護研究に取り組まれたみなさん 1 年間お疲れさまでした。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『認知症看護研修』
研修会実施報告

日時　　：令和 3 年 1 月 23 日（土）09：00～16：00
対象者　：33 名
参加者数：33 名
目的　　：認知症患者の看護に必要な基礎的知識と適切なケアについて学ぶ

＜講師の紹介＞

公益社団法人　兵庫県看護協会
教育・認定部　専任教員
認知症看護認定看護師　吉見　薫先生

＜内容＞

はじめに認知症の特徴を知るため脳の働き、認知症の原因となる疾患や症状についての講義がありました。認知症の人を理解することは認知症という病気だけを見るのではなく、相手の事を「認知症を持つ人」として捉える事が重要であるということが述べられていました。対象がどのように暮らそうとしているのか、本人のこれまでの体験・背景を知る事が相手を理解する上で重要であると感じました。

次に、認知症の人とのコミュニケーションを図る上で必要な基本姿勢をもとに、コミュニケーション技術においては“お隣セッション”や“グループワーク”を用いて学びを深めていきました。適切にコミュニケーションを図ることで対象の「人となり」や「価値観形成に及ぼしたもの」を知る事ができ、実際のケアに繋げる事ができます。対象のニーズや課題を導き出すことができるようこの研修での学びを活用させてもらいたいと思います。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『看護研究　第４回目』
研修会実施報告

日時　　：令和２年 12 月５日（土）　８：30～17：15
対象者　：卒後４年スタッフ 13 名　アドバイザー3 名
参加者数：16 名
目的　　：看護研究の取り組み方法と実際を知り、看護の創造性を養う事ができる

＜講師の紹介＞

山陽学園大学　中木里実先生
順天堂大学　平岡玲子先生
畿央大学　福森貢先生

今回の研修はコロナウイルス感染拡大の影響を受け中木先生はオンライン形式での参加となりました。

午前中は主に統計学・福森先生にご指導いただき、午後からは前回に引き続き中木先生・平岡先生にご指導いただきました。

＜内容＞

今回の研修は各グループがデータ収集を終え、結果・分析を含む内容を論文作成し研修に参加しました。

午前は各グループが論文を発表し、福森先生からデータ分析に関することや分析結果の論文への書き方、グラフの表し方など細部にわたる助言をいただきました。

午後は中木先生、平岡先生に論文の内容を吟味し、研究してきた内容をわかりやすく伝わる形で論文にする方法についてご指導いただきました。

今回の研修では初めてオンラインでご指導頂くこととなりました。不慣れな環境下での研修となりましたが、先生や受講生の協力もあり、いつもと同様にご指導を受けることができました。年が明けると研究発表本番まで残り 30 日となります。講師の先生、アドバイザーから助言をいただきながら論文完成やプレゼンテーションの準備を頑張ってください。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『プリセプティ研修（ステップⅡ）』
研修会実施報告

日時　　：令和２年 12 月４日（金）8:30～17:15
対象者　：卒後８ヶ月
参加者数：12 名
目的　　：1. 組織やチーム内での自分の役割を認識し、メンバーの一員として行動できる
2. 自己目標が明確になり、自己の成長に繋げる
3. シミュレーションを通して自らの行動を振り返り、根拠に基づいた看護の必要性を理解する

＜講師の紹介＞

新人教育委員会メンバー
午前
2A 病棟　M 主査　4A 病棟　T 主任
午後
3A 病棟　N 主査　3B 病棟　Y 主任
記録委員会メンバー
2B 病棟　H 主任　中央手術室　M 主任

＜内容＞

入職して８ヶ月、それぞれの部署で自己で行える看護技術や業務が増え、ローテーション研修が終了した時期の研修でした。「組織とチームについて」を学び、メンバーの役割や報告・連絡・相談の重要性を再認識しました。伝言ゲームでは情報を正しく伝えることの難しさを体感し、今後はメモを取り数値まで正確に情報共有を行う必要性を学びました。「インシデントと医療事故について」では KYT の視点でグループでリスクを共有しました。危険を未然に防ぐための環境整備の重要性が活発に意見交換され、今後の看護に活かすことができると思います。シミュレーション研修では事例検討を行い、患者の状態に合わせた観察点や優先順位をつける難しさを感じました。今回の研修で学んだメンバーの一員としての役割、根拠に基づいた看護を今後の看護実践に活かしていただきたいです。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『係長研修』
研修会実施報告

日時　　：令和 2 年 11 月 28 日（土）　8：30～17：15
対象者　：25 名
参加者数：24 名
目的　　：1. 地域包括ケアの実現に向けた地域及び自組織の課題をアセスメントし、解決に向けた看護職として必要な調整に取り組める。
2. ラダーの到達状況の評価が適切にできる。

＜講師の紹介＞

日本看護協会　インターネット配信研修
午前：地域及び自組織の課題のアセスメントと解決に向けた調整力の育成
午後：JNA ラダーによる評価のポイントと実際

ファシリテーター
O　副看護局長
H　副看護局長

＜内容＞

今回の係長研修では配信研修を元に自己の課題について事前課題に取り組み、グループディスカッションを行いました。午前の「地域及び自組織の課題のアセスメントと解決に向けた調整力の育成」を視聴後は、退院調整について必要なケアを行うために、退院後の生活をイメージし他部署と連携・情報共有することが必要であること、自己に必要な調整力と課題について導きだすことができました。午後の「JNA ラダーによる評価のポイントと実際」を視聴後は、ラダーの意義を理解しその必要性を浸透させることや、ラダーを意識し業務を行うことが動機付けに繋がる等、活発な意見交換が行われました。お二人の副看護局長がファシリテーターとして参加して下さり、フロアを越えてのディスカッションは係長としてのモチベーションアップに繋がったのではないかと思います。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『臨床倫理研修』
研修会実施報告

日時　　：令和２年 11 月７日（土）９：30～16：00
対象者　：看護師長およびラダーⅡ～Ⅳ
参加者数：51 名
目的　　：部署における倫理的感性を高めるため、指導者的役割を果たせる

＜講師の紹介＞

公益社団法人日本看護協会
看護業務・医療安全課課長
緩和ケア認定看護師
梅内　美保子　先生

＜内容＞

はじめに倫理とは何か、「生命・医療倫理の４原則」を元に事例を用いて講義をすすめられました。「安楽死」に関する事例では、患者の余命が短いと予測される中で「人生の最期をどのように迎えるのか」「何が良い、正しい判断と行動になるのか」という内容から問題提起され、深く考えさせられる内容でした。次に、ケースカンファレンスの展開について講義があり、ファシリテーターの役割を含めてお話をしていただきました。カンファレンスをする上では「何のために議論をするのか」「どのぐらい大事なことなのか」その必要性とお互いの価値観を共有する場にすることが大切であると述べられていました。そして、そのためには参加者全員の意見を引き出せるように目線を合わせること、安心して自由に意見が言える雰囲気を作ることがファシリテーターに求められる役割であると学びました。メンバーの“知恵”や“やる気”を引き出し、深い納得に裏付けられた合意を実現させるためファシリテーターは重要な役割を果たす必要があるのだということを実感することができました。多忙になるとカンファレンスの機会を持つことがなかなかできなくなることもありますが、きちんとテーブルを囲まなくても、多職種がそろわなくても問題解決に向けた話し合いができていればケアにつながっていきます。この研修での学びを活かし様々な内容をスタッフが共有・意見交換し今後の看護につなげていきたいと思います。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『看護局の展望　研修』
研修会実施報告

日時　　：令和 2 年 10 月 15 日（木）17：30 ～ 18：15
対象者　：全体研修
参加者数：55 名
目的　　：　看護の動向を学び看護の質の向上を図る

＜講師の紹介＞

認定看護管理者

看護局長

＜内容＞

大和高田市立病院の概要をはじめ、看護局の現状とビジョンをわかりやすいデータ表示を加えながら限られた時間の中、盛りだくさんの内容でご講義いただきました。

今年度の病院のビジョン【①健全経営（黒字化）②地域医療の貢献③働きやすい病院】に沿って、看護局が担う役割を、具体例を示しながら説明をして頂きました。看護職員全員が、同じ目標に向かって病院経営に参画し、より質の高い看護ケアの実践を行っていかなかなければならないことを改めて自覚する機会となりました。

また、新型コロナウィルス感染症対応で、今年度、病院及び看護局の体制が随時、変更になった経緯を説明して頂きました。地域住民の要望に応える病院として、社会状況に応じた柔軟な対応が求められます。今後も続くと予測されるコロナ禍ですが、職員一丸となってお互い協力して困難も乗り越え、働きやすい職場づくりを目指していきましょう。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『看護研究　第３回目』
研修会実施報告

日時　　：令和２年10月10日（土）　8：30～17：15
対象者　：卒後４年スタッフ13名　アドバイザー3名
参加者数：16名
目的　　：看護研究の取り組み方法と実際を知り、看護の創造性を養う事ができる

＜講師の紹介＞

山陽学園大学　中木里実先生
順天堂大学　平岡玲子先生
畿央大学　福森貢先生

午前中は主に統計学・福森先生にご指導いただきました。
午後からは前回に引き続き中木先生・平岡先生にご指導いただきました。

＜内容＞

卒後看護研究４グループ全てが倫理審査を通過し、９月には全グループがデータ収集を開始できました。ご協力いただいている関係部署の皆さん、ありがとうございます。
今回は、「はじめに」から「研究方法」までを論文にまとめる事前課題がありました。パワーポイントで課題発表後、午前中は統計学視点から助言をいただき、午後は「論文の書き方について」の講義後、グループワークを行いました。グループワーク時には先生に質問し論文作成にむけて積極的に取り組んでいました。研究発表まで、研修もあと１回です。論文完成に向け各グループ協力しましょう。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『最新のスキンケア』
研修会実施報告

日時　　：令和２年 10 月９日（金）13:00～17:15
対象者　：卒後２年目～ラダーⅠを目指す者
参加者数：23 名
目的　　：あらゆる状況、さまざまな対象者に応じたスキンケアに関する最新知識を習得する

＜講師の紹介＞

皮膚・排泄ケア認定看護師　特定看護師
H 係長
2011 年に皮膚・排泄ケア認定看護師資格を取得され、現在おもに褥瘡管理やスキンケアなどの相談、スタッフへの指導など幅広くご活躍されています。

＜内容＞

今回の研修は皮膚の構造からはじまり、「スキンケアの基本」、「褥瘡評価・ケア」、「皮膚障害の予防」を中心に行われました。「スキンケアの基本」は洗浄・保湿・保護であり、実際に泡を作って洗浄を行い、保湿剤の塗布、保護の方法を学びました。「褥瘡評価」では褥瘡の原因と好発部位、DESIGN-R の説明がありました。「褥瘡ケア」では体位変換とポジショニング、車椅子移乗時の良好な姿勢などの基本的な内容から創傷治療に使用する外用剤、ドレッシング材の説明がありました。「皮膚障害の予防」ではスキンテアの原因と予防、臀部の皮膚トラブルの予防など実践的な内容でした。研修の内容は臨床現場に即した内容であり看護実践に活かしていただくことを期待しています。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『急変の予測とアセスメント研修』
研修会実施報告

日時：2020 年 9 月 12 日（土曜日）08:30～16:50
対象者：ラダーⅡ～Ⅲを目指す者
参加者数：32 名
目的：重症化・急変予測につなげるための急性期アセスメントが理解できる

＜講師の紹介＞

特定看護師　　A 主査
集中ケア認定看護師　Y 主査

＜内容＞

午前の研修は、「バイタルサインと周術期看護」「シリンジポンプとカテコラミン」についてでした。患者のデータを読み取り急変を予測し備えておくための見るべきポイントについてや、医療機器を正しく取り扱い「当たり前のことを当たり前にする」ことで人為的な急変につなげないようにすることの重要性を再認識することが出来ました。

午後は、「集中ケア」についてでした。心停止した患者の 70%は、心停止前の 8 時間以内に呼吸症状の増悪所見を呈しているという講義を受け、午前の講義にあった呼吸数測定の重要性を強く感じました。多くの急変には前兆があり、そこに至らないためには予測できるアセスメント力を身につけ適切な手技で必要な看護を行うことが大切になると学ぶことが出来ました。

そして、講義後には症例を用いて「呼吸・循環・意識レベル」の各項をもとに「数日間で起こってほしくない現象は？」というテーマでグループワークを行いました。この患者にはどのようなことが予測され何が必要か、何が原因でその症状がでているのか等、活発な意見交換が行われました。受講生からは、「日々の対応の中で“きっと大丈夫だろう”という先入観は捨て、急変の前兆に気づくことができるよう意識していこうと思います。」「急変予防は呼吸数測定からということを研修の中で学び、今後は呼吸数の観察もしっかりと行い、患者のアセスメントをしていこうと思います。」等意見がありました。急性期アセスメントの向上につなげられる研修となり、それぞれの部署で活躍されることを期待しています。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『リーダー研修①』
研修会実施報告

日時　　：2020 年 9 月 9 日（水）　08：30～17：15
対象者　：卒後 3 年
参加者数：14 名
目的　　：チームリーダーとしての役割を理解し主体的なメンバーシップを発揮することができる

＜講師の紹介＞

リーダー研修　：3A　係長
　　4A　主査

BLS 研修　　：2A　主任

＜内容＞

今回の研修は AM：リーダー研修、PM：BLS 研修が行われました。リーダー研修では「リーダーとは」について講義を聞き、リーダーとしてスタッフや医師とのコミュニケーションの大切さや、必要な能力を身に付けるための努力、そしてスタッフからの情報だけに頼るのではなく、自らが患者さんのベッドサイドへ行くことの重要性を学びました。性格分析では、自己の強み・弱みを知ることで、具体的なリーダー像を言語化出来ました。グループワークでは、チームとしての自己の役割や、チームワークの重要性、視野を広くもつことの意味を学び、今後の看護実践に活かせる内容でした。また、BLS 研修では、全てのことが１人で出来るのではなく、チームで協力しながら看護していくこと、そしてリーダーは病棟全体を把握し、スタッフを動かす能力や的確な指示を出す判断力が必要であることを学びました。これから、自分がどのようなリーダーになりたいのか理想を持ち、先輩のサポートを受けながら経験を積み、うまくいかなかったケースは研修を思い出し検討を繰り返すことで自己のステップアップにつながります。今後の活躍を期待しています。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『リーダー研修②』
研修会実施報告

日時　　：令和２年８月７日（金）８：30～12：00
対象者　：卒後４年　ラダーⅡ　13 名
参加者数：17 名
目的　　：自分の役割が理解でき効果的にリーダーシップを発揮することができる

＜講師の紹介＞

4B 病棟：　H 係長
3B 病棟：　O 係長
2B 病棟：　I 係長

＜内容＞

今回の研修前半は、リーダー研修の振り返りと社会人基礎力（3 つの能力と 12 の能力要素）についてでした。自己分析シートを用いて社会人基礎力分析表を作成することで、自己の強みや弱みを知ることができ、研修生それぞれが具体的な理想のリーダー像をイメージすることが出来ました。そして研修後半では、リーダーに必要な能力の 1 つである想定力についての講義がありました。看護師は日頃から、様々な物事に対して「もし〇〇だったらと考える力」いわゆる、推測する力が重要であり、習得していく必要があることを学びました。研修最後には、4 グループに分かれ KYT シミュレーションを行いました。活発に意見交換ができ、共有できたことは大きな学びとなり、今後リーダー看護師としての役割を果たす際、活用できる内容であったと思います。

リーダーシップを発揮するには、まだまだ不安が強い研修生が大多数でしたが、この研修を受講することで、自己の目標が明確になりました。今後、日々の業務での意識付けや、看護師としての地道な知識・技術の積み重ねをすることで、自らの自信につながり、素晴らしいリーダーシップが発揮できると考えます。今回受講された 4 年目スタッフは、各部署係長のサポート・コーチングを受けながら、それぞれの目標達成にむけて取り組まれます。今後の活躍を期待しています。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『フィジカルアセスメント』
研修会実施報告

日時　　：令和 2 年 7 月 21 日
対象者　：プリセプティ・プリセプター（実施指導者）
参加者数：23 名
目的　　：1. フィジカルアセスメントの意義を理解し EBN に基づいた看護が提供できる。
　　2. 実施指導者としてモデルとなる行動をとれる。

＜講師の紹介＞

放送大学大学院文化科学研究科
生活健康科学教授　山内豊明先生

1985 年新潟大学医学部を卒業され医師として勤務された後、1997 年にアメリカでナース・プラクティショナーの免許を取得される。帰国後、2002 年名古屋大学医学部基礎看護学講座教授となられ、現在、放送大学大学院文化科学研究科生活健康科学教授としてご活躍されています。

当院においても看護必要度研修、フィジカルアセスメント研修など長年にわたりご指導いただいています。

＜内容＞

今回、新型コロナウイルス感染症対策のためスキルアップ委員会としては初めてのオンライン研修として開催されました。講義内容は「フィジカルアセスメント・臨床推論の進め方」「バイタルサイン～意義・実際・応用～」「呼吸器系のアセスメント」「心不全」でした。全身状態の観察は医療機器だけに頼るのではなく五感を用いて観察することが重要であり、基本に戻って看護を行うことの大切さを改めて実感しました。呼吸器系アセスメントでは音声・動画を流しながらの講義であったため受講生から「とても分かりやすかった」「聞き分けができるように経験を積んでいきたい」「学んだことを日々の業務で意識し、異常の早期発見ができるようになりたい」などの意見が多数ありました。多くの学びを得ることができ自己の能力向上につながる研修となったと思います。今回の研修の学びを実践に活かし、質の高い看護を提供できる看護師に成長されることを期待しています。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『看護研究　第２回目』
研修会実施報告

日時　　：令和２年７月４日（土）　８：30～17：15
対象者　：卒後４年スタッフ 13 名　アドバイザー3 名
参加者数：16 名
目的　　：看護研究の取り組み方法と実際を知り、看護の創造性を養う事ができる

＜講師の紹介＞

山陽学園大学　中木里実先生
順天堂大学　　平岡玲子先生

１回目の研修は非常事態宣言発令中のため
お招きできませんでしたが、これまでメールで
アドバイスをいただいていました。
今回、初めて直接ご指導いただきました。

＜内容＞

今回は、事前課題である研究計画書について各グループで発表を行い、先生方からアドバイスを頂きました。その後、グループワークでさらに内容を深め先生やアドバイザーからの助言を元に研究作業を進めていきました。

現在、倫理審査申請中のため最終確定ではありませんが、各グループのテーマをお知らせいたします。

1 グループ「アルコール飲料による手指消毒の有効性について」
2 グループ「離床センサーに対する看護師の意識変化
～離床センサーを使用せずに看護ケア援助を行うには～」
3 グループ「意思決定支援の向上に向けた取り組み
～アドバンス・ケア・プランニングに関する認知調査～」
4 グループ「慢性心不全患者への身体機能に着目した看護援助への認識と取り組みの状況」
今後、関係部署の皆さんにはご協力をお願いすることと思いますが、宜しくお願いします。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『退院後の生活を見据えた支援』
研修会実施報告

日時　　：令和 2 年 6 月 27 日（土）9：00～16：30
対象者　：27 名
参加者数：30 名
目的　　：退院調整に関わる看護師が在宅医療移行に向けてケアの視点や他職種・地域との連携を図り、円滑な退院調整が行えるスキルを習得する

＜講師の紹介＞

医療法人良翔会　訪問看護ステーションみそら
小林千恵子先生
大阪市桃山看護専門学校卒業
済生会奈良病院勤務
訪問看護ステーション勤務
訪問看護ステーションみそら設立
2018 年　訪問看護認定看護師取得
2019 年　特定行為研修受講
特定看護師としてもご活躍されています

＜内容＞

はじめに介護保険制度や介護認定、限度額など基本的知識についての講義があり個人ワークを行なうことで実際に患者の退院後の生活をイメージしたプランを考える事が出来ました。
また退院前カンファレンスに必要な患者情報、患者・家族の思いなど理解し参加することの重要性や、その人らしく生活を送るためには院内外の関係者との連携や情報共有が大切である事など、より病院と地域で支えるスタッフとの連携が重要であることの理解ができました。
「最期をどこで迎えるかではなく最期を誰と過ごしたいのかが大切である」という言葉が多くの人の心に残ったように思います。今回の研修で講師が掲げたテーマである「想像力」を身につけることができ、今後の実践に役立て頑張って下さい。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『ナーシングエイド研修』研修会実施報告
感染対策・接遇研修

日時　　：１）令和２年６月１６日（水）
　　２）令和２年６月３０日（水）
対象者　：ナーシングエイド　介護福祉士
参加者数：４０人
目的　　：１）感染症について理解することができる
　　手指衛生、ガウンテクニックを身につけることができる
　　２）医療現場での接遇について理解することができる

＜講師の紹介＞

４Ｂ病棟　　Ｆ係長
３Ｂ病棟　　Ｎ主査

＜内容＞

研修の前半は感染対策についての研修でした。講義では、院内の標準予防策（スタンダードプリコーション）、感染経路別の予防策などを学び、実技では正しい方法での手指衛生とガウンテクニックを学びました。病院で働くうえで自分自身が感染源にならないようにすること、また自分自身を感染から守ることの必要性が理解できたと思います。

後半の接遇研修では「医療現場での接遇とは」「高齢者とのコミュニケーション」「クレーム対応」などを学びました。グループワークでは、チェックシートを用いてお互いの身だしなみを確認し合いました。また各グループで「なぜ接遇が必要なのか」をテーマに意見交換をしてもらい、それぞれのグループで発表してもらいました。ナーシングエイドには病院で働く職員の一人として、一人一人が病院の顔であることを自覚した接遇を習得してもらう必要があります。今回の研修を通して、学んだことを日々の業務にも活かしてほしいと思います。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『統計学』
研修会実施報告

日時　　：令和２年６月 13 日（土）　８：30～17：15
対象者　：卒後４年スタッフ 13 名　アドバイザー3 名　部署研究２名
参加者数：18 名
目的　　：看護研究の取り組み方法と実際を知り、看護の創造性を養う事ができる

＜講師の紹介＞

畿央大学　健康科学部 理学療法学科
教授　福森 貢 先生
1983 年 近畿大学理工学部卒業
日本制御機器株式会社でハード・ソフトウエアの設計・開発
1999 年 京都市立福知山市民病院附属看護専門学校　非常勤講師
国立病院機構舞鶴医療センター付属京都看護助産師専門学校　非常勤講師
2005 年 畿央大学 専門：ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ・統計学・情報学
当院では 2010 年より看護研究研修の講師としてご指導頂いています。

＜内容＞

統計の基礎知識や仮説検定による統計処理の方法についてわかりやすく講義をしていただきました。講義では福森先生オリジナルの統計処理ソフトを使用させて頂き、仮説検定の意味や活用方法を学びました。さらに例題を用いて様々な検定方法を体験し、学びを深めることができました。
研究グループごとに統計処理方法やアンケート、データの取り方について具体的なアドバイスを頂いた事で、これから自信をもって研究を進めることができると思います。今回の研修で学んだことを活かし頑張って下さい

看護局スキルアップ委員会ニュース

『プリセプティ研修（ステップⅠ）』
研修会実施報告

日時　　：令和２年６月４日（木）8:30～12:30
対象者　：卒後３カ月
参加者数：14 名
目的　　：チーム内での自己目標が明確になり自己の成長に繋げる

＜講師の紹介＞

新人教育委員会メンバー
5A 病棟　K 主任
4B 病棟　N 主任

＜内容＞

就職して２ヵ月、それぞれの配属部署で看護技術や業務を覚えることが多い大変な時期の研修でした。

まず情報交換会を行ない「できるようになったこと」や「日々の振り返りはどのようにしているか？」についてグループワークをしました。チェックリストも意識し看護技術は少しずつできることが増えていました。

次に「社会人とは」の講義を聞き、「学生と新人看護師の相違点」も情報共有しました。「新人看護師のリアリティショック」についての講義もあり、先輩看護師の体験談も交えながら自分なりの解決策を考えました。

「新人看護師に必要な 10 のこと」では「学習」「考える力」「コミュニケーション力」「守秘義務」「報告・連絡・相談」をグループで共有し発表しました。研修の終わりには「6 ヵ月後・1 年後・3 年後・5 年後どんなふうになっていたいですか？」という質問に「1 年後にはプライマリーとして働いている姿を目標にしたい」、「今はまだ自立していないが、チームの一員として頼ってもらえるようになりたい」など自己の目標を言語化することができました。この研修を通してチームの中での自己の役割と目標が明確になり、それぞれの部署で目標に向かって成長されることを楽しみに期待しています。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『看護研究第１回目』研修会実施報告

日時　　：令和２年４月 25 日（土）　8：30～17：15

対象者　：卒後４年スタッフ 13 名　アドバイザー3 名　部署１名

参加者数：17 名

目的　　：看護研究の取り組み方法と実際を知り、看護の創造性を養う事ができる

＜講師の紹介＞

次年度に引き続き、
山陽学園大学　中木里実先生
順天堂大学　平岡玲子先生
畿央大学　福森貢先生
にご指導いただきます。
今年度のアドバイザーは、
2A 病棟　　M Ns
透析室　　N 主査
手術室　　A 主査の３名です。

＜内容＞

看護研究１回目は、コロナウイルス感染症の影響により緊急事態宣言が発令されていたことで、講師の先生をお招きすることができませんでした。
副看護局長より「看護研究」「統計学」について講義を受けた後、事前課題についてそれぞれが発表し、その内容を元に４グループが編成されました。
1 年間を通じて取り組むテーマについて話し合い、アドバイザーの指導の下、文献検索を行う等、どのグループも熱心に取り組まれていました。このような状況の中ではありますが、グループメンバーで協力して看護研究に取り組んでもらいたいと思います。

看護局スキルアップ委員会ニュース

『新人看護職員研修』
研修会実施報告

日時　　：令和２年４月１日（水）09：20～16：30
対象者　：　新人職員
参加者数：18 名（看護師 16 名、助産師２名）
目的　　：病院職員及び看護局に関する組織について学ぶ。看護業務を行う上で基本となる知識・技術を習得する。

＜タイムスケジュール＞

0920　オリエンテーション
0925　看護局　部署紹介　配属発表　辞令交付
1040　看護局長より、理念、方針
　　新人看護職員研修制度について
1117　看護協会･看護部会について
1300　白衣、シューズの配布　ロッカー案内
1325　免許申請にかる留意事項について
1340　各委員会紹介
1415　院内集合研修の説明
1500　自己紹介
1530　配属部署へ
1610　事務局長より挨拶
1630　研修修了　質疑応答

＜内容＞

新入職者 18 名を迎え、４月１日、看護師、助産師として第１歩をスタートしました。最初に看護局の紹介、続いて部署紹介を行い配属発表そして、辞令交付となりました。工夫を凝らした紹介パワーポイントを見て緊張感の中にも笑顔が見られていました。その後、改めて辞令交付が行われ、引き締まった表情で受け取られていました。看護局長から病院・看護局の理念・方針・新人看護職員研修制度の説明、事務局長から職員の心構えや病院組織についての説明を受け、社会人としての意識が高まる研修でした。自己紹介では、持ち時間１分でしたが、緊張しながらも趣味や配属先への思いなど一生懸命自己 PR をされていたことが印象的でした。これから新人教育をうけ、お互い切磋琢磨しながら、自分の目標に向かって邁進してください。今後の活躍に期待しています。